

株式会社 日高振興公社

決算書類

第 26 期

自 平成 31 年 4 月 1 日
至 令和 2 年 3 月 31 日

株式会社 日高振興公社 第26期 事業報告

1 事業の経過および成果

当事業年度における国内経済をみると、10月の消費増税に伴い、軽減税率や幼児教育の無償化などが実施されましたが、国内小売業の売上業績はキャッシュレス決済を導入後もスーパーや百貨店では大きく落ち込んでいます。また、さらに深刻なのが、新型コロナウイルス感染拡大による国内・世界経済への影響です。先行きの見えない不安と自粛要請により、特に観光業は大きな影響を受け、事業の継続が難しくなっています。

また、但馬地域においても10月の消費増税により、売上が落ち込み、1月以降は暖冬による雪不足の為、神鍋高原スキー場の入山者は、昨年を大幅に下回り2万3千人(6万6千人減)となりました。一昨年から比べてみると11万1千人減少と観光業に深刻な影響を受けました。暖冬による落ち込みを挽回できぬまま、2月下旬以降の新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、観光客は激減し、イベント自粛が追い打ちをかける形で残念ながら今期を終えることとなりました。

このような状況の下、当社は「地域と共に創る個性ある道の駅」を目指し、神鍋高原のおみやげ開発などに取り組んで参りました。

従業員の職務能力向上を図るため、兵庫県内の道の駅めぐり、他府県の事業所訪問やコンサルタントの指導、地元企業・高校生との連携強化により、イベント集客・ランチビュッフェの演出・店舗展開(坪単価・客単価アップ)等、「個性ある道の駅づくり」のための研修を行いました。

また、毎月開催している社員会議では、各部門ごとに経費実態・新規イベント計画・新商品開発・設備投資計画等、勉強会を適時実施し、様々な取り組みを行いました。

○来客数

道の駅「神鍋高原」	117,829人	(前年度比:91%	△11,650人)
神鍋温泉ゆとろぎ	65,666人	(前年度比:95%	△3,817人)

結果、当事業年度における業績は、

売上高	181,433千円	(前年度比:93%	△13,293千円)
営業利益	△4,336千円	(前年度比:—%	△6,731千円)
経常利益	△3,195千円	(前年度比:—%	△7,304千円)
当期純利益	△2,600千円	(前年度比:—%	△6,498千円)
		(前年度:3,898千円)	となりました。

(1) 道の駅「神鍋高原」

① 売店部門

今年は客単価アップを図る為、よりどり 3 個 1,000 円のセット販売を始め、売上 1,900 千円となりました。さらに、冷蔵ショーケースの増加に加え、新たに冷凍ショーケースを新設しました。夏合宿用に飲料・アイスクリームを、冬のスキー客に向けて、冷凍かにすきセットなどを販売し、売り上げに貢献しました。10 月には駐車場内に全但バス路線経路を設ける他、お客様への利便性向上を図る為、駐車台数を 35 台増加し、合計 123 台を確保することができました。

一方、継続的な取り組みとして、香住高校生が製造したサバの缶詰の販売や、新たに自社として食肉販売業の許可を取得したことで、但馬農業高校生加工の但馬鶏の冷凍肉販売及び花卉の販売などを行いました。

イベントでは高校生を中心に、地元企業や行政施設の地域交流を目的とした「暖 da 団まつり」を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症により、急遽中止となりました。

さらに、下記の商品を道の駅「神鍋高原」でしか購入できない商品 (PB 商品) と位置付け、他店舗との差別化を図りました。

○高校生商品	年間販売数： 1,700 個	売上金額： 942 千円
○よりどり 3 個セット	年間販売数： 1,184 個	売上金額： 1,184 千円
○キャベツチップ	年間販売数： 4,171 個	売上金額： 2,073 千円
○ほんまもん神鍋	年間販売数： 11,219 個	売上金額： 7,250 千円

② 飲食部門

毎年 7 月・8 月に開催する「全但バス神鍋線利用促進イベント」の「神鍋 BeerNight」は 8 年目を迎え、客数 670 名、売上 1,833 千円、バス利用 362 名(客数比 54%)となり、神鍋の夏の風物詩として浸透しています。

平日の集客に向け、初めて実施した地元食材を使用した「ミックスフライ定食」を定番化しました。販売数量 1,094 食、売上金額 1,012 千円となり、定食の中では一番人気のメニューとなりました。また、地元商工会と連携して八鹿豚のコロッケを使用した定食の試験販売を開始しました。次年度に向け、平日の集客に繋がるメニュー開発を行っています。

土、日、祝日のランチビュッフェでは、客数 16,288 名、売上金額 17,169 千円となり、昨年より客数 288 名、売上金額 169 千円と僅かながら増加しています。

また、毎月定休日を設けた効率的な運営は経費削減に繋がる一方、定期的な清掃・点検日とすることで衛生面にも目配りができる環境となっています。

(2) 神鍋温泉ゆとろぎ

4月は但東チューリップまつりのチューリップ湯をはじめ、菖蒲湯やゆず湯など、地域連携による季節湯を実施し、見た目や香りも楽しんでいただけたことと思います。

また、暖冬の影響により「スキーリフト券利用者割引」の利用者は1,775名(前年比24%)と大きく落ち込んでいます。一方、継続事業のフォレストアドベンチャー奥神鍋(450名利用)、パラグライダースクール(152名利用)、但馬ドーム(109名利用)、全但バス神鍋線(284名利用)と提携した割引サービスは非常に効果があり利用者は増えています。

本年度の新たな取り組みとして、①団体利用の混雑緩和の為の事前告知、②給水器や足ふきマットの増設など、③団体客に備えた対応マニュアルの作成などを行いました。

また、毎週水曜日に定休日を設け、大浴槽のろ過機や男性サウナの修繕工事を実施し、お客様に気持ちよく利用していただけるように、衛生面・設備面での管理を強化しました。

2 事業実績

売上高の推移

単位：千円

区 分	第 24 期	第 25 期	第 26 期
売店部門	125,684	116,322	107,315
飲食部門	41,477	36,015	32,510
温泉部門	41,654	38,382	37,654
市受託料	4,026	4,006	3,954
合 計	212,841	194,725	181,433

営業成績、財産状況の推移

単位：千円

区 分	第 24 期	第 25 期	第 26 期
経常利益	5,306	4,109	△3,195
当期純利益	5,094	3,898	△2,600
総資産	39,231	37,761	34,296
純資産	21,299	25,196	22,597

3 会社の概要

(1) 資本金

資本金	36,000,000 円
-----	--------------

(2) 株式の状況

発行済株式総数	720 株
うち豊岡市保有分	400 株

(3) 役員の状況

役職名	役員名
代表取締役	岡 森 且 哉
専務取締役	久 田 喜三郎
取 締 役	岡 藤 泰 明
取 締 役	小 谷 士 郎
取 締 役	村 上 勝 幸
取 締 役	原 清 美
監 査 役	小 林 辰 美
監 査 役	伊 藤 豊 秀

(4) 社員（従業員）の状況

区分	人数	構成
社 員	5	男性 3 人、女性 2 人
パート	14	男性 2 人、女性 12 人
計	19	男性 5 人、女性 14 人

決 算 報 告 書

第 26 期

自 平成31年 4月 1日

至 令和 2年 3月31日

株式会社 日高振興公社

兵庫県豊岡市日高町栗栖野59-13

貸借対照表

(単位：円)

株式会社 日高振興公社

令和 2年 3月31日現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	【 27,890,370】	【流動負債】	【 11,699,455】
現金及び預金	24,122,216	買掛金	658,224
売掛金	285,596	受託未払金	2,319,898
商 品	427,434	未 払 金	6,782,595
原 材 料	486,940	預 り 金	53,538
貯 蔵 品	518,804	法人税等充当金	213,200
未 収 入 金	2,049,380	未 払 消 費 税	1,672,000
【固定資産】	【 6,405,686】	負債の部計	11,699,455
(有形固定資産)	(5,916,552)	純資産の部	
建 物	3,357,172	【株主資本】	【 22,596,601】
建物付属設備	207,833	[資 本 金]	[36,000,000]
車両運搬具	2	[利益剰余金]	[Δ13,403,399]
工具器具備品	2,313,385	利益準備金	9,000,000
一括償却資産	38,160	(その他利益剰余金)	(Δ22,403,399)
(無形固定資産)	(489,134)	繰越利益剰余金	Δ22,403,399
ソフトウェア	489,134	(うち当期純利益)	(Δ2,599,790)
		純資産の部計	22,596,601
資産の部計	34,296,056	負債・純資産の部計	34,296,056

損 益 計 算 書

(単位：円)

自 平成31年 4月 1日

株式会社 日高振興公社

至 令和 2年 3月31日

科 目	金 額	金 額
【売 上 高】		
売 店 売 上	107,315,244	
市事業委託料等	3,954,288	
レストラン売上	32,509,825	
温 泉 売 上	37,653,564	181,432,921
【売 上 原 価】		
期首棚卸高	855,689	
仕 入 高	75,746,914	
材 料 費	13,873,558	
合 計	90,476,161	
期末棚卸高	914,374	89,561,787
売 上 総 利 益		91,871,134
【販売費及び一般管理費】		96,207,251
営 業 利 益		△4,336,117
【営 業 外 収 益】		
受 取 利 息	5,762	
雑 収 入	1,135,043	1,140,805
【営 業 外 費 用】		
雑 損 失	100	100
経 常 利 益		△3,195,412
【特 別 利 益】		
国 庫 補 助 金	807,500	807,500
税引前当期純利益		△2,387,912
法人税等充当額		211,878
当 期 純 利 益		△2,599,790

販売費・一般管理費内訳書

(単位：円)

自 平成31年 4月 1日

株式会社 日高振興公社

至 令和 2年 3月31日

科 目	金 額
役員報酬	4,313,800
給料手当	32,651,427
福利厚生費	6,818,711
雑給	6,505,838
シルバー委託費	2,450,482
広告宣伝費	2,083,727
運賃	60,068
燃料費	5,703,355
衛生費	7,375,631
一括資産償却費	174,260
水道光熱費	10,845,287
会議費	67,224
事務費	1,308,153
消耗品費	3,023,933
地代家賃	38,100
支払保険料	594,190
修繕費	813,690
租税公課	4,011,500
減価償却費	2,806,968
接待交際費	329,735
旅費交通費	83,760
通信費	421,424
支払手数料	2,055,103
貸借料	1,054,671
諸会費	451,600
購読費	48,944
雑費	115,670
合 計	96,207,251

株主資本等変動計算書

株式会社 日高振興公社

自 平成31年 4月 1日
至 令和 2年 3月31日

(単位：円)

	株 本		資 本				株 主 資 本 計	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	新 株 予 約 権	純 資 産 合 計
	資 本 金	資 本 準 備 金	そ の 他 の 資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	利 益 準 備 金	そ の 他 の 利 益 剰 余 金				
当期首残高	36,000,000			9,000,000	19,803,609		25,196,391		25,196,391	
当期変動額										
当期純利益					Δ2,599,790	Δ2,599,790	Δ2,599,790		Δ2,599,790	
当期変動額合計					Δ2,599,790	Δ2,599,790	Δ2,599,790		Δ2,599,790	
当期末残高	36,000,000			9,000,000	Δ22,403,399	22,596,601	22,596,601		22,596,601	

	利 益 剰 余 金 の 内 訳		利 益 剰 余 金 計
	利 益 準 備 金	利 益 剰 余 金 合 計	
当期首残高	9,000,000	10,803,609	19,803,609
当期変動額		Δ2,599,790	Δ2,599,790
当期純利益		Δ2,599,790	Δ2,599,790
当期変動額合計		Δ22,403,399	Δ22,403,399
当期末残高	9,000,000	13,403,399	22,403,399

個 別 注 記 表

自 平成31年 4月 1日

株式会社 日高振興公社

至 令和 2年 3月31日

この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成している。

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

資産の評価基準及び評価方法

たな卸資産の評価基準及び評価方法

原材料・商品・貯蔵品 …………… 最終仕入原価法による原価法

固定資産の減価償却の方法

有形固定資産 …………… 平成10年4月1日以後に取得した建物及び平成28年4月1日以後に
取得した建物附属設備・構築物は定額法、それ以外は定率法

無形固定資産 …………… 定額法

収益及び費用の計上基準

原則として収益は実現主義により、費用は発生主義により計上している。

その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理 …………… 税込方式で計上している。

2. 貸借対照表に関する注記

固定資産から直接控除した減価償却累計額の合計額 …………… 35,781,952 円

3. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末日における発行済株式の数 …………… 720 株

当事業年度末日における自己株式の数 …………… 0 株

4. 1株当たり情報に関する注記

1株当たりの純資産額 …………… 31,384 円 16 銭

1株当たりの当期純利益 …………… △3,610 円 81 銭